

辺野古に基地は作れない 3つの理由

その1 公有水面埋立許可

辺野古に基地を建設するには、海を埋め立てなければなりません。埋め立てには、「公有水面埋立法」により県知事の許可が必要です。沖縄県の自然保全指針は、辺野古を「評価ランク

・自然環境の厳正な保護を図る区域」に指定しています。簡単に埋め立てが許可できるものではありません。また仲井真弘多知事は基地の県外移設を求めていますから、許可を出す可能性は低いでしょう。

さらに沖縄県では11月に県知事選挙が行われます。この選挙で基地建設反対の候補者が当選すれば、埋め立て許可の可能性は完全に無くなるのです。



辺野古の米軍基地エリア

その2 米国のジュゴン訴訟

辺野古の沖合では、ジュゴンの生息が確認されています。ジュゴンは日本の天然記念物に指定され、また絶滅の危機に瀕している希少生物です。

日米の環境保護団体はジュゴンを守るために、米国のサンフランシスコ地裁に対して、『天然記念物であるジュゴンの生息地への基地建設は、国に歴史的文化遺産の保護を命じるNHPA（国家歴史保護法）違反である』との訴えを起こしました。

この訴えに対してサンフランシスコ地裁は、米国防総省がNHPAの必須条件の順守を怠ったことを認めました。そのために米国政府は、辺野古沖合での基地建設着工許可を日本政府に出せずにいるのです。また例え米国政府が許可を出したとしても、裁判所に差止請求を行えば、裁判所は工事の差し止めを認める可能性が大きいのです。

この裁判はあまり報じられてはいません。しかし米国政府は、米国の国内法によって、辺野古での基地建設を止められているのです。

その3 自民党もできなかった

日米が新基地建設を決めたのは、1996年でした。当時は自民党政府で、沖縄県も名護市も新基地建設容認でした。政府は新基地建設反対の住民を懐柔するため、多額の地域振興策を行いました。それでも住民の反対運動の前に、13年間も建設に着工できなかったのです。

では現在はどうでしょうか。09年の衆議院選挙では、4つの小選挙区全てで反対派の候補者が当選しました。県議会は全会一致で、基地建設反対を決議しています。本年の名護市長選挙でも、反対派の市長が誕生しました。

沖縄県の世論が、新基地建設反対であることは明らかです。建設推進は、自民党政権時代よりも、困難になっているのです。



全国から6000人が参加した反対集会。沖縄からも100人が上京して、「基地建設反対」の声をあげた。

連絡先

普天間基地即時閉鎖!

辺野古新基地はいらない!

高江ヘリパッドもいらない!

辺野古アクション/川崎・宮前区CITIZENS

miyamae_okinawa@auone.jp

<http://home.j09.itscom.net/coara/>

普天間基地は米国へ、県内移設に反対です。

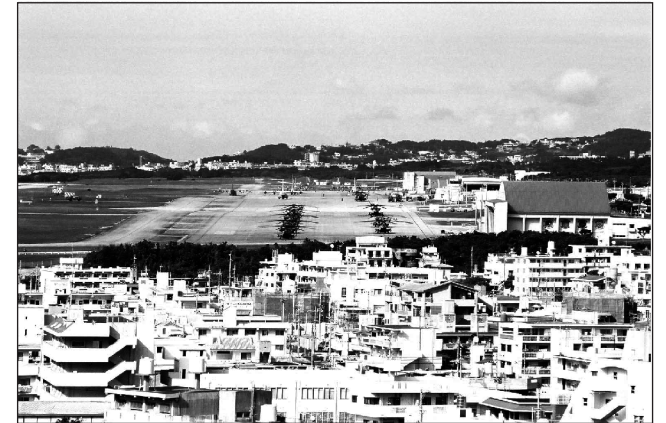
辺野古移転で日米政府が再合意

日米両国政府は5月28日、沖縄県宜野湾市にある海兵隊普天間基地の移設先を、名護市の辺野古とする合意文書を発表しました。鳩山首相は就任以来、普天間基地の移設先は沖縄県内ではなく、「できれば国外、最低でも県外」にすると発言してきました。

しかし辺野古での新基地建設に固執する米国の圧力や、米国の意思を受けた外務省・防衛省の前に、残念ながら屈してしまったのです。鳩山さんは総理を辞任し、新しい総理には菅直人さんが選ばれましたが、菅さんも辺野古新基地建設を推進すると表明しています。

日米政府が新基地建設に合意したのは、1996年です。しかし辺野古の住民をはじめ多くの沖縄県民が反対し、13年間経っても基地建設に着手することができませんでした。民主党政権になって、沖縄の状況が変わったわけではありません。民主党政権が米国へ約束した辺野古での新基地建設は、実現できない「から約束」になります。

沖縄の人々は、日々、米軍の訓練による被害や、米兵犯罪の被害を受けています。このままでは、反米軍感情は高まるばかりです。日米の友好関係を考えるならば、本当に必要なことは、「から約束」を積み重ねることではなく、沖縄の米軍基地を縮小することではないでしょうか。



海兵隊普天間基地（上）。ヘリコプターや空中給油機など約60機が駐留している。宜野湾市の中心にあり、市面積の約25%を占める。ひどいときには民家の上空を、30秒おきにヘリコプターが通過する。また飛行訓練は早朝や深夜にも行われ、周辺住民の生活を破壊している。

2004年8月、普天間基地を離陸したヘリコプターが、隣接する沖縄国際大学に墜落した。炎上したヘリコプターは、大学の校舎を焼いた（下）。墜落の原因は整備不良であった。

とまらない米兵犯罪

米兵少年、起訴事実認める タクシー強盗（沖縄タイムス5月25日）

（前略）検察側の冒頭陳述によると、事件当時、補給部隊に所属していた少年は、特殊部隊への異動を希望し、行動力があることを上官にアピールしようと、強盗を計画。同基地に配備された際に、上官から県内で米軍人によるタクシー強盗が多発していると注意を受けたことから、「タクシー強盗がそんなに多くあるなら簡単にできる」と思い立ったとした。（後略）

米兵、バス窃盗図る 未遂容疑で2人逮捕 読谷（沖縄タイムス6月21日）

読谷村内のバスターミナルに侵入し路線バスを盗もうとしたとして、嘉手納署は20日、建造物侵入と窃盗未遂の疑いで在沖米空軍嘉手納基地所属の上等兵クリストファー・ケルナー容疑者（21）と同所属の上等兵エバン・ミックヒュー容疑者（20）を逮捕した。同署によると、2人は犯行当時、酒に酔っており、大筋で容疑を認めているという。（後略）